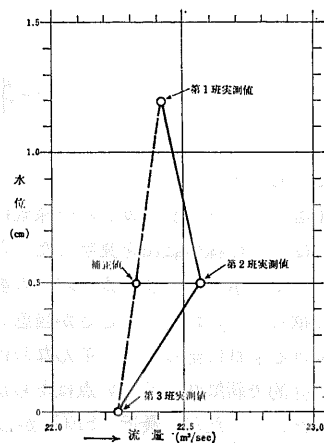


第1図 各班が行なった水深の測定と流速測定との比較

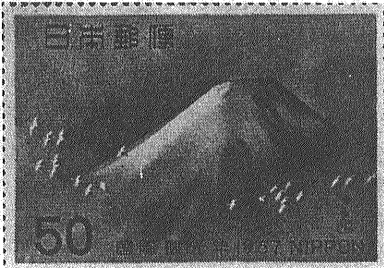


第2図 水位と流量の関係

の多数の測定値を測定時の水位に結びつけ、水位—流量の関係式から最確値を見つけだすのである。

今回、研修生が実施した流量測定は、使用した流速計および測定断面の相違および個人差などがあつたが、流量の誤差は+1.1%であつて、巷間伝えるほど大きな誤

差でない。流量測定の際の誤差を少なくするための最大な要件は、たとえ測定者が専門家であろうとなかろうと、また、平水時期であっても、洪水期であっても、測定断面の選定であり、測定は直流部を選ぶことを強調しておきたい。(筆者は応用地質部)



地学
と
切手

霊峰不二

堀内 恵彦

富士山はわが国第一の名山で、静岡・山梨の両県にまたがり、典型的なコニーデ式火山です。むかしは、不尽・不二・富慈などとも書き、また山頂火口壁の起伏から、芋蓐峰・八朶峰ともよばれました。標高3776.3mのこの山は、古くから信仰の山として、富士講の信者によって、神聖な霊山として、たつとばれましたが、四周からそびえる姿は、また日本の象徴となり、詩に、歌に、また絵にと、あらゆる機会に表わされております。版画では、葛飾北斎の富嶽三十六景は有名ですが、写真では、富士を撮しては第一人

といわれる、岡田紅陽氏が有名です。この切手は大正・昭和を通じて、日本画の第一人者といわれた文化勲章受章者、横山大観画伯(1868~1958年)がその格調高い墨線に、神秘的な感覚をわきださせて画いた「霊峰不二」を、原画に忠実に、切手画面に再現させたもので、昭和42年10月2日、国際観光年と東京で開かれた官設観光機関国際同盟の総会を記念して発行されたもので、原画の美しさと印刷技術の優秀さと、いままでにない大きな画面(48×33mm)がいま、50円という高額であるにもかかわらず、発売当日に即時売り切れたといういわく付きの切手です。

切手はグラビア四色刷りで、原画は横山画伯の作品中でも、随一といわれる作品です。日本切手で、富士山を題材にした切手は、多くありますが、荘重華麗さで、この切手の右に出るものはなく、全世界の山岳を画いた切手のなかでも、おそらく最高級の作品でしょう。(筆者は元所員、現日本科学技術情報センター)